

# 第1回 舟漕ぎ大会 活動報告

1. と き 平成17年8月28日(日)午前9:30~
2. ところ 滝川市西滝川 海洋センター前ラウネ川  
天候 晴れ時々曇り 最高気温27度 風弱
3. 主 催 まちづくり・川づくり協議会
4. 協 賛 滝川市・滝川市教育委員会・西滝川ラウネ川オフィス町内会・陸上自衛隊滝川駐屯地曹友会・滝川市都市農村交流施設組合
5. 後 援 北海道エールセンター・(株)中山組・しのじま皮膚科・(株)マリアージュインベルコ・三星ハイヤー(株)・(株)自工商事・スズキ滝川・(株)上田コンクリート工業所・居酒屋でん助・(株)新谷組・穴戸組(株)・(有)滝川ファーム・笹木産業(株)・(株)コスモス印刷・(有)祐川建設・(有)滝泉商会・滝川ふれ愛の里・(株)カナモト・(株)植松電機・泉町げんき会・後藤仕出し店(有)(順不同)

## 6. 大会の趣旨

「舟漕ぎ大会」は、ミントチ祭りの中で、Eポートという新しい道具を使ってボート遊びを楽しみながら、ラウネ川を通じて石狩川流域における私たち協議会の活動を知りきっかけになることを目的としています。

## 7. 「Eポート」とは、

人々が気軽に川に集まり、川で交流するために、新しい視点から考え出されたのが、交流のための「Eポート」です。

Eポートは、子どもから高齢者まで誰でもが簡単に操作できる、安全な10人乗りの手漕ぎボートです。流域の人々がともに汗を流しながら交流を図り、エコライフ(環境に配慮する生活)を楽しむことができます。

このほか、Eポートの“E”にはEducation(教育)としての意味合いや、Ecology(生態)、Environment(環境)、Eternity(永遠)のニュアンス等がこめられています。

また、本協議会では今後増える集中豪雨にあわせた内水防災対策中で、内水氾濫時の被災者の救助、特に避難弱者に対する輸送のための救助用ボートとして災害時には消防へ提供さら、今後は住民自らも今大会を機会に操作なれ親しむことで、自主防災へ向けたきっかけを提供したいと考えております。

## 8. 大会プログラム

## 【受付・開会式】

- メイン会場（ふれ愛の里横 パークゴルフ場との間）  
9：30～ 9：50 受付（参加者の確認・メガホン贈与）  
10：00～10：15 開会式  
10：15～10：30 移動（海洋センター前に移動）

## 【競 技】

- ラウネ川（海洋センター前）  
10：30～10：45 大会趣旨・ルール・スケジュール説明  
10：45～11：00 準備体操、安全指導  
11：00～11：15 Eボート操作手順  
準備・休憩15分  
11：30～ 第1回タイムトライヤル  
第一組・第二組・第三組・第四組  
12：50～ 第2回タイムトライヤル  
13：50 競技終了  
13：50～14：20 移動・後片付け・休憩（参加者もご協力お願いします）

## 【交流会・表彰式】

- メイン会場  
14：20～15：00 賞状授与式・交流会・安達挨拶（メイン会場）  
交流会（チームごとに感想と来年への意気込みを聞く。）  
なお、天候や競技の進行において時間が変更する場合がありますのでご承知おきください。

### 交流会

- |     |              |
|-----|--------------|
| 内 容 | 表彰状授与及び賞品贈呈式 |
|     | 大会長挨拶        |
|     | 交 流 会        |

## 9. 参加チーム 紹介

『川で遊び、川で出会い、流域のネットワークを育てよう。』

敬称省略・参加申込順

チーム名	滝川河川（ヘビィー級）	代表者	野上勝弘
参加者名	葛西聡・山口秀木・斎藤等・以後昭洋・神山雅行		
チームのPR等	石狩川・空知川を管理している滝川河川事務所です。身近な河川のすばらしさを一緒に楽しみましょう！ パワー重視でメンバーを集めました。舟が沈まないか心配？？		

チーム名	滝川河川（ミドル級）	代表者	山本重樹
参加者名	大島省吾・村館行男・前北賀則・池崎慎二・白戸暢彦		
チームのPR等	舟漕ぎを通じて「川をきれいに」をアピールしたいです。パワーよりスタミナ重視でヘビィー級には負けません！		

チーム名	滝五会（たきごかい）	代表者	伊藤寿
参加者名	小川洋史・松下吉伸・祐川健一・佐々木利光・福島秀光		
チームのPR等	私たち滝五会は、滝川、特に（泉町、幸町）など周辺の火災、水難から滝川市民の生活を守るため、日夜がんばっています。滝川消防第五分団です。チーム的にはみんな（諦めない精神）なので、この大会は上位を狙って行きたいと思います。		

チーム名	どろ舟ファイターズ	代表者	藤田博
参加者名	伊藤純一・白瀬真也・安部唯人・関口弘憲・浅水紳介		
チームのPR等	滝川の消防署の職員で日頃から訓練にことかかないで、人一倍体力には自信があります。あとは舟のコントロールさえうまく行けば上位入賞を狙っていきます。皆様の応援よろしく。		

チーム名	北電テクニカルセンター	代表者	矢野博之
参加者名	小島敏彦・児玉孝志・星幸男・柏原広忠・見城直		
チームのPR等	研修所の講師陣（ちょっと年配・・・）と今年の新入社員1名（若手バリバリ）の組合せ。3ヶ月の新入社員研修で培った「チーム力」で上位入賞を目指します。（駒大苫小牧に続け！）		

チーム名	まっすぐ進みたい(隊)!	代表者	横山千鶴子
参加者名	中野恭宏・上田元子・加藤なつみ・亀井健二・山中貴史・山中有見子		
チームのPR等	大会主催者である「まちづくり・川づくり協議会」からの交流促進のための参加です。ゴールに向かってひたすら早く、まっすぐ進みたいと思っています。お気軽に声をおかけください。		

チーム名	石狩川下覧櫂	代表者	高橋俊明
参加者名	加藤武・白崎正弘・山口恭正・高橋泰之・高橋康貴・福田裕子		
チームのPR等	石狩川下覧櫂川下りも、今年で10回を無事終わり、全員気が抜けて勝負にはならないかと思いますが、楽しく・親睦を深めて行きたいと思っています。		

チーム名	ジャリジャリシンタニ丸	代表者	寺坂仁志
参加者名	石馬場元・星厚早・小笠原耕治・工藤克広・猪田健司		
チームのPR等	かなり高齢の人が多めなので無理しないでGO!		

## 10. 舟漕ぎ大会 競技ルール

### チーム編成

- 1チーム6～8名・・・ただし、競技の乗船者は6名  
(メガホン声かけ1名 舵取り1名、漕ぎ手4名、補欠2名)  
一般(満18歳以上)ただし、高校生は認められません。

### 競技方法

- Eポート(Gタイプ)2艇によるタイムレースを実施します。
- タイムレースとし、各チーム2回・2艇ごとタイムレースを行い、その2回の合計タイムの早い順に順位を決定する。
- 出場10分前には大会本部前に集合し、本部に出場者のチェックをすまし、その後、前の組が終了したら大会本部にて前の組のライフジャケットを着用し、乗船前にライフジャケットの検査を受けてから、係員の指示に従い、Eポートに乗船し、その後スタートポジションまで移動する。
- スタートポジションまでは5分間の練習時間を設けているので、指定されたエリア内での練習をスタート5分前まで許可する。
- スタートの5分前に笛をならしますので、1分前までにスタートライン後方よりEポートが下がるように、スタート係員の指示に従いスタートまで待機ください。

コースは150mで設定されています。

タイムはゴール審査が測定いたします。船首がゴール地点に到達した時点でゴールとします。

表彰に関しては、1位～3位まで準備します。(賞品は7位まで)

ライフジャケット、Eボート、パドルは主催者で準備いたします。

保険に関しては、参加申込書にあるメンバーで加入します。また、当日の参加者の変更は、保険加入の関係から認められません。

なお、当日、参加構成人数に欠員が生じた場合については大会本部にて他のチームへの協力者の斡旋をいたしますのでご相談ください。

#### 注意事項

参加に当たっては、各自で健康管理してください。

アルコールの飲酒後の参加は認められません。

詳細についてのルール等についてはスタート前に全チームの代表者を通じて説明いたします。

#### 11. タイム記録結果

使用艇 EボートG1タイプ

競技方法 150m直線 (6人制/チーム) 4名の漕ぎ手

タイムトライアル制(2漕の合計タイム)

順位	チーム名	第1回タイム	第2回タイム	合計タイム
優勝	どろ舟ファイターズ	1分13秒08	1分06秒90	2分19秒98
準優勝	石狩川下覧権	1分15秒93	1分07秒59	2分23秒52
3位	滝五会	1分18秒99	1分12秒83	2分31秒82
4位	滝川河川(ヘビー級)	1分21秒74	1分17秒16	2分38秒90
5位	北電テクニカルセンター	1分25秒06	1分16秒17	2分41秒23
6位	滝川河川(ミドル級)	1分28秒36	1分20秒16	2分48秒52
ブービー賞	ジャリジャリシンタニ丸	1分31秒24	1分23秒08	2分54秒32
ミントチ賞	まっすぐ進みたい(隊)!	1分29秒90	1分24秒98	2分54秒88

コースレコード		
どろ舟ファイターズ	1分06秒90	8071m/h

## 12. 大会アルバム



Eボートの操作方法の説明



漕ぎ方・舵取り・座り方・乗り降りの方法など説明  
PFD・レスキューロープの実演・浮き方や泳ぎ方の実演



乗船前にチームごとに記念撮影



乗船・降船をスタッフがサポート



レースの状況（ブイがゴールです）



大会副長 安達挨拶





表彰式 優勝チーム どろ舟ファイターズ



交流会（ジンギスカンを食べながら意見交換）

### 13. 講評

#### 応募の状況

準備期間が少ない中、募集のほとんどが口コミであったにもかかわらず、多くのチームが申込をいただき、ボートレースの人気の高さや参加のしやすさを知りました。

また、インターネットを見て参加をしていただいたチームもあり、インターネットにおける情報発信の威力が再認識された。

さらには、今回はEボートの乗船定員10人のいっぱいではなく、職場・団体にグループ化しやすい6名を設定したことが、より参加しやすい環境をつくりだしたと考えている。

#### レース方法とレースの面白さ

今回は、通常のEボート大会の到着順のトーナメント制をとらず、タイムトライアルを導入して、各チームが2回必ず漕ぐことができるよう設定したことが、2回目に挑戦することへの意気込みと、順位ではなくタイムにトライアルするチームなど、順位だけにとらわれず、自己ベストを狙うということもできたということも評価できる点である。

また、タイムレースにより、大会プログラムを時間どおりに進行することができたこともイベントを行う上で重要な点である。

#### セルフトークと最小限のレスキュー体制づくり

##### 危険予見及び回避によるレスキューの最小化

海洋センターとの大会の活動エリアの区別し、ゴール地点の衝突を回避するためのレースエリアを最小面積で決めたことや参加者に対してPFDの効力と装着方法と装着検査を徹底し（主催者と参加者の責任分担の説明）、また、スイムやレスキューロープのつかまり方などを指導したことで、水上レスキューにおいて、テクニシャンクラス2名と陸側からレスポンドークラスによるレスキューロープでの救助エリアを分けたことで最小人数のレスキュー体制で、水上にいる参加者12名の救助体制を取ることができた。

#### 交流によるネットワークの形成に向けて

関係団体や関係機関の方々の参加により、川に関わる様々な団体の活動状況や川の利用に関するご意見など様々な情報交換の場づくりの1役を担うことができた。

より多くの関係者の方々に参加いただき、協議会の目標である「川を活かした魅力ある川づくりと活力ある地域づくり」をすすめるため、1団体だけではなしえないものを流域のネットワーク形成を進めることで実現できるような情報交流に対する仕掛けづ

くりが、今後とも求められる。

#### 内水防災における水防力の向上

内水氾濫時の対応として避難することが、まず望まれるが、避難に遅れた場合などに役立つ被救助者への救助方法のひとつであるレスキューロープの捕まり方や河川利用者の活動において、絶対であるPFDの必要性を学ぶ機会を設けることで、いざと言う災害や事故の時の被救助者が知っておくべき基礎的なことがらを学んでもらうことができた。

また、消防団や消防署が参加することで救助ボートの災害時の活用時の練習にもつながった。

さらには、今後は、Eボート(救助ボート)の救助や交流利用、レスキューロープの利用、住民の救助技術者の育成などにより、地域住民の自主防災活動の一環として、専門的な消防職員などが来る前に1分1秒を争う水難救助の初期救助を自ら行うことができることが、地域の水防力を高めることとなる。そのことを本大会を通じて普及させることが必要である。

それと同時に救助に当たっては一定の救助技術者でなければ二次災害につながることや、素人でもできる安全な救助とはなにかを知っていただくことも大切なことである。

なお、当講評は、現在グループ内で更に詳細な評価をして、議論していますので、あくまで舟漕ぎ大会プログラムの大枠の講評のみである。